

稲作情報

気象変動に負けない稲づくり

「土づくり」「適切な水管理」などの基本技術の励行を



作柄概況109

平成28年産米の品質は一等米比率で85・7%となり、前年の84・6%を上回る結果となりました。内訳としては、県認証コシヒカリは90・2%、JA認証コシヒカリは85・6%、こしいぶきは89・3%でした。

今年度は、天候が良好だったため、生育は順調に推移し、収量も多く、作柄概況は109と例年にない結果となりました。粒張り・粒揃いは平年より良い状況ではありましたが、8月の高温障害と思われる心白粒や胴割粒が多く見受けられ、収穫前期は比較的品質が安定していましたが、後半になるにつれ、白未熟粒が目立つようになりました。天候不良により稲刈りが遅れ

た地域では、刈り遅れによる胴割粒や、倒伏部分の生育不足による除青未熟粒、発芽粒などが散見されました。

基本技術の励行が重要

地域によりカメムシの被害が確認された圃場もありました。特に、生育の早い早生品種は、カメムシによる斑点米での格落が多くなっています。出穂期が早く、カメムシの防除適期を逃しやすいためと考えられます。被害粒は混入が少量であっても格落ちの要因となります。JAや県などからのカメムシ発生情報を注視し、防除適期を逃さずに、確実に防除を徹底しましょう。また、籾混入による格落

も見られます。籾の流量を減らすなど、丁寧な調整をお願いします。

気象変動に負けない稲づくりにには、「土づくり」や「適切な水管理」などの基本技術の励行が最も重要になります。

次のページにあげるポイントを確実に実施しましょう。

稲作情報メール配信中

JAでは稲作の情報提供を迅速に進めるため、メール配信を行っています。ぜひご利用ください。

メール配信のお申込みは、各営農経済センターにて随時受付けています。

稲作情報

品質・食味の高位安定化に向けて 次のポイントに注意

① じこがポイント

しっかりと根を張り、健全な発育を促すため、耕深15cmを目標に耕うん作業を行います。ただし、急激に深くすると初期生育不良を起こす場合があるので、1年に1〜2cm程度としましょう。

② 施肥改善

過剰生育とならないよう基肥量の見直しを行います。穂肥をしっかりと施すことが品質向上につながります。

また、基肥一発肥料は地力などに応じて慎重に施肥量を決定する必要があります。

(控えめが基本)

③ 早目の中干し・溝切り

移植後30日を目安に遅れずに中干しを実施し、生育過剰が予想される場合は早めに中干しを開始するようにしましょう。なお、中干しは遅くとも出穂30日前までには終了するようにし、小ヒビが入る程度での終了を基本としましょう。溝切りは後の水管理(飽水管理)作業を容易にしますので、必ず実施しましょう。

④ 水管理の徹底

中干し以降は飽水管理を行い、圃場を乾かし過ぎないようにし、特に夏場の高温時には出来るだけ入水しましょう。

完全落水は出穂後25日以降としましょう。

⑤ 的確な穂肥対応

穂肥は品質や食味・収量に大きく影響しますので、生育状況に応じた対応が必要になります。しっかりと施せるように稲姿を調節することが最大のポイントになります。さらに2回目の穂肥は、登熟期の栄養不足を防ぎ品質向上が期待されますので、必ず施しましょう。

なお、基肥一発肥料についても、高温で推移した場合等、状況に応じて穂肥の施用を検討しましょう。

⑥ 適期刈取り

機械・施設能力に応じた作付や品種の変更、作付時期をずらすなど、刈取り適期の集中や刈り遅れによる品質低下を防止しましょう。

⑦ 土づくり

気象変動に負けず、高品質・良食味米を生産するためには、有機物や微量要素が多く含まれる豊かな「土」を作る必要があります。単年度では効果が見えづらく労力も掛かりますが、積極的に有機物や土づくり資材を投入し「土」を育てましょう。

⑧ 安全・安心

使用する農薬・肥料などは、必ず使用方法を確認し安全使用に留意しましょう。種子更新・苗購入先や使用品目名・量などは栽培管理日誌へ正確に記入しましょう。

平成28年産米 成分調査結果

平成28年産米の成分調査が終了しました。

出荷された玄米および籾からサンプルを採取し、当JA所有の機器で調査し得られた結果です。

タンパク含量は、米の食味を左右する最大条件です。

地区により差はありますが、全体平均値は目標値内となっています。

29年度も良食味・高品質米の生産を目指しましょう。

平成28年産米の成分・品質調査集計（コシヒカリ）

食味は点、その他は%

地区別	総サンプル数	水分	成分調査				品質調査					
			タンパク	アミロース	脂肪酸度	食味	良質粒	未熟粒	被害粒	死米	着色粒	胴割
城川	945	14.8	5.7	17.0	18.1	82	70.2	25.3	4.1	0.2	0.1	2.6
千田	579	15.1	5.6	16.8	18.6	83	69.7	26.1	3.9	0.2	0.2	2.4
小栗田	864	15.0	5.8	16.8	18.2	82	70.3	25.7	3.6	0.3	0.2	2.1
南部	225	15.2	5.5	17.1	19.3	83	70.2	25.3	4.0	0.3	0.2	3.0
川井	175	15.2	5.5	16.9	19.0	84	71.0	25.3	3.2	0.3	0.2	2.4
真人	328	15.1	5.4	17.4	19.5	83	71.5	25.0	3.1	0.2	0.2	2.3
東小千谷	242	15.0	5.5	16.9	18.4	84	70.0	25.5	4.2	0.2	0.2	2.7
四ツ子	921	14.9	5.6	17.0	18.8	83	71.6	24.1	4.0	0.2	0.1	2.4
中央	322	15.0	5.6	16.9	18.7	83	71.5	24.3	3.8	0.2	0.1	3.0
山新田	193	15.2	5.7	17.3	19.8	81	73.1	24.2	2.4	0.2	0.1	1.2
片貝中央	758	15.8	6.0	16.6	20.8	79	71.3	25.3	3.0	0.1	0.1	2.1
鴻巣	109	15.1	5.9	16.9	19.2	80	70.6	25.0	4.1	0.2	0.1	3.0
高梨	625	15.2	5.7	16.6	19.2	82	71.3	24.1	4.4	0.1	0.1	3.1
計・平均	6,286	15.1	5.7	16.9	19.0	82	71.1	24.9	3.7	0.2	0.1	2.5
目標値		15.0	6.0以下	20.0以下	18.0以下	80以上	75以上	少ないほど良い				

※測定はいずれも静岡製機の機器を使用

タンパクは水分15%時の推定値

JA育苗センターよりお知らせ

JA越後おぢや育苗センターをご利用頂きありがとうございます。

平成28年度より水稻苗申込書は前年ご注文頂いた方へ配布しております。

なお、新たに水稻苗の購入を希望される方は、お手数ですが下記へご連絡いただくか、総合営農経済センターへお越しくださいますようお願いいたします。

総合営農経済センター

小千谷市土川1丁目12番25号

営農生産部米穀販売課

☎(0258)83-3425